

医療現場のニーズ把握

弘前 機器開発へ勉強会

県などが主催する医療現場ニーズ勉強会(青森MOI)が29日、弘前市の弘前大学健康未来イノベーションセンターで開かれた。医療現場などで扱われる医療機器の開発や改善につなげようと、県内外のものづくり企業や学生ら約70人が参加し、医療従事者の発表を通じて臨床現場の現状と課題を把握した。

県はライフ関連分野での産業活性化を図ろうと、さまざまな取り組みを展開している。医工連携を推進する今

回の勉強会もこの一切り弘前、青森の3で、医療現場ともものづくりの「橋渡しの場」として今年八戸を皮学COI研究推進機構



ものづくり関係者らが医療現場の現状と課題に理解を深めた勉強会

の村下公一教授が、短命県返上を掲げ、健康寿命延伸に向けて多くの企業と連携し商品開発につなげている弘大COIの取り組みを紹介した。

この後、臨床現場のニーズを、弘大医学研究科形成外科学講座の漆館聡志教授、弘大医学部附属病院手術部の館山比佐子看護師長、同臨床工学部の後藤武技師長が発表。3氏は「造影剤用のウエットタオルが必要」「透析用や採血時に血管が可視化できる装置を望む」などと、それぞれの経験や立場から現場の声を伝えた。

青森会場の勉強会は11月5日、ラ・プラス

青い森で開催する。問い合わせは県商工労働部新産業創造課(☎0